

# スポーツ合宿等誘致事業や西九州自動車道建設促進事業などを議論

## 産業建設文教委員会レポート



委員長報告全文はこちらをご覧ください。

産業建設文教委員会

委員長 井元 宏三  
副委員長 綾香 良一  
委員 池田 稔巳  
山本 賢治  
芳久

全記 俊郎  
実 松本 正治  
神田 松尾

### 6次産業化推進事業

**Q** DNA調査では、骨はヨーロッパ系であることが確認されており、当時、70人の外国人が平戸で死亡し、その中で埋葬時期から10人にまで絞られている。今後も可能な限り調査を行なっていく。

**Q** 令和元年度の申請実績が、1件にとどまった要因は。

**A** これまでは1次生産者が主体となつて取り組む事業の施設・機械設備のみが補助対象となつていたことがネックであった。令和2年度は、1次生産者に加え、中小企業者も対象とし、新商品開発総合支援事業補助金として補助制度の改正を行なった。施設・機械設備だけでなく、販売やパッケージなどの開発までを対象とし、積極的に多くの事業者が活用できるような周知活動にも取り組むたい。

### スポーツ合宿等誘致事業

**Q** 今回合宿する実業団誘致の経緯・経費の負担、費用対効果は。

**A** 長崎県にスポーツ合宿やスポーツ大会などの誘致を行う長崎県スポーツコミッションが設立された。長崎県ス

駐車場に駐車中の車が破損する被害が発生した。このことから、生徒や教職員、来校者などの安全対策として、グラウンドと来校者兼職員用駐車場の間に防砂フェンスを設置するものである。  
**委員会からの指摘**  
フェンス設置においては、庁内の技術職員とも十分連携しながら効果や安全性、耐久性を考慮し設置するよう。

### 西九州自動車道建設促進事業

**Q** 協議会を立ち上げ要望活動を何人で行う予定で考えているのか。

**A** 民間7団体の代表と市長、議長、産業建設文教委員長、議員数人、民間の若手後継者数人、職員の合計20人の構成を予定である。具体的な人数は、協議会を立ち上げ決定したいと考えており、協議会は松浦・佐々道路供用開始まで継続していきたい。

### 特別支援教育支援員配置事業

**Q** 支援員の配置状況は。

**A** 支援が必要な児童生徒数は小学校で280人、中学校で100人である。現在22人の支援員で対応しているが、学校現場からは支援員の増員を要

スポーツコミッションを通じ、シオノギ製業のマネージャーが赤坂野球場や南部地区にある屋内運動場を視察したことから誘致できた。市の負担は、長崎県スポーツコミッションへの負担金やパスの借上げなどで186万9千円である。一方、選手、コーチなど30人が本市に10日間滞在することにより、宿泊費などで約274万円の経済効果を見込んでいる。長崎県スポーツコミッションを通じた誘致の場合は、宿泊費等の補助対象経費の4分の1ずつを県と市で負担することから、今後も長崎県スポーツコミッションを通じ誘致活動を行いたい。



### 企業誘致対策事業

**Q** 本市への企業からの視察は何社か。企業誘致が出来れば雇用が生まれ、市の税収も期待され、少子化対策にもなる。総合的に判断し、企業立地奨励金など今後検討する課題があるのではないか。

**A** 15社から訪問があり、うち3社に

望されているものの、応募者がいない状況である。

### 生月町B&G海洋センター管理運営事業

**Q** トレーニング室の機材は古いものもある。機材の入れ替えなど環境を変え、その分利用料を上げて費用対効果を生むようなことは考えないのか。

**A** 意見を参考に、今後、検討したい。

### 令和2年度平戸市あづち大島いさりびの里事業特別会計予算

**委員会からの意見・指摘**

いさりびの里は大島村で唯一の大人数で宿泊できる施設であり、今後も存続できるようにしてもらいたい。また、大島村は花粉の避粉地であることから、避粉地ツアーなどをもっとアピールし集客に繋がるように民泊事業者、指定管理者などと連携しながら宿泊客が増加するよう住民と一体となって取り組んでもらいたい。

### 令和2年度平戸市水道事業会計予算

**Q** 老朽管路更新事業の管路埋設工事における埋設の深さは浅くできないか。敷設工事に法的な縛りがあるのか。

継続的に営業活動を行なっている。企業との面談の中で、場所については特に問題はないが、雇用する場合に人材が集まるのかというのが課題である。進出企業にもよるが、創業時に50人以上の雇用の確保は厳しく、30人程度でも難しいのではないかと思っている。また、企業が進出するにはタイムリミットや要件が全てそろわないといけない。企業も以前は多くの労働力に頼る労働集約型であったが、近年は機械設備や自動化に多額の資金を投入する資本集約型に移行している。企業の事業形態も変わってきているので、見極めながら必要な見直しを検討していきたい。

### 国際交流員招致事業

**Q** 2人の国際交流員の活動内容は。

**A** 姉妹都市等との調整、通訳、市民向けの出前講座、SNSによる海外への情報発信などの活動を行なっている。

### 屋外教育環境整備事業

**Q** 防砂フェンス設置の経緯は。

**A** 市立生月中学校において平成22年12月28日と平成31年3月15日にグラウンドの砂を巻き込んだ突風により、

**A** 国土交通省から国道における水道管の上部と路面との距離は、道路の舗装厚に30cmを加えた値とし、60cmを下回らないようにと通知があつており、平戸市内の国道、県道は、田平土木維持管理事務所と協議し、国道は舗装厚65cmに30cmを加えた95cmの深さで行うことで許可を受けている。60cmでも管の強度はあるが、道路管理者からの指示で施工している。また、敷設工事は、歩道など極力安価にできるように施工場所を選定している。

### 平戸市農業集落排水事業

**市からの報告**

計画では大型合併浄化槽の設置を検討していたが、浄化槽施設の耐用年数を国（九州農政局）へ確認した結果、年数が短くなったことや、合併浄化槽の処理対象入槽算定基準が令和2年4月1日から緩和され、同じ面積の住宅でも一定の要件を満たせば、小型のものでも対応できるようになったことから、個別合併浄化槽への転換を行いたいと考えている。実施時期については、補助金適正化法による補助金返還額および地方債の償還終了と現施設の運用費用等から算出したところ、令和12年度が最適と思われるが、毎年検証しながら最良の時期を判断したい。